



エピック・ヘッジファンド・セレクション1 月次運用レポート

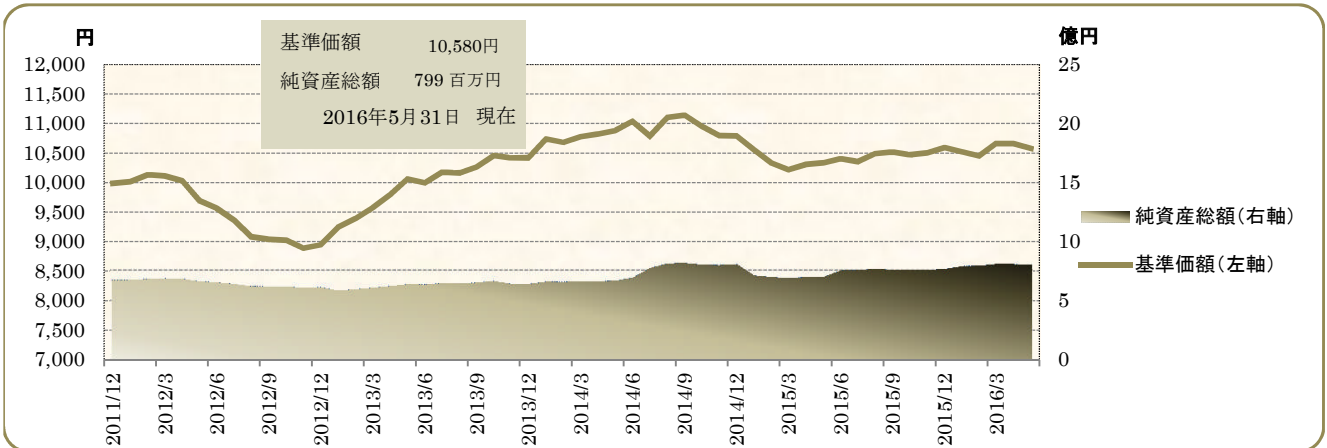
ケイマン諸島籍オープン・エンド契約型外国投資信託(追加型)

作成基準日

2016年5月31日

基準価額騰落率推移 (諸費用控除後, 税引前)

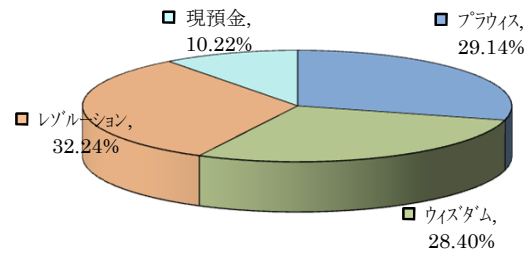
2016	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	年初来
騰落率	-0.65%	-0.67%	2.02%	-0.04%	-0.75%								-0.12%
2015	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	年初来
騰落率	-2.19%	-2.07%	-1.13%	0.85%	0.28%	0.68%	-0.50%	1.31%	0.29%	-0.49%	0.32%	0.87%	-1.85%
2014	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	年初来
騰落率	3.05%	-0.55%	0.89%	0.41%	0.55%	1.48%	-2.27%	2.94%	0.34%	-1.73%	-1.44%	-0.02%	3.54%



運用実績

設定日:	2011年12月19日	
決算日:	毎年11月30日	
当初設定元本:	673百万円	
基準日:	2016年5月31日	
基準価額:	10,580円	対前月比 -80円
純資産総額:	799百万円	対前月比 -5.0百万円
設定来高値:	11,146円	
設定来安値:	8,888円	
期間別	3ヶ月	1.21%
基準価額騰落率	6ヶ月	0.74%
設定来	ファンド	5.80%
基準価額騰落率	TOPIX	90.70%
	日経平均	105.14%

投資対象ファンドへの資産配分 (2016年5月31日現在)



運用実績等に関するグラフ、数値等は過去のものであり、将来の運用成果等を示唆または保証するものではありません。

投資対象ファンドの基準価額騰落率推移 (諸費用控除後, 税引前)

2016	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	年初来
プライスイ	-0.72%	-0.39%	1.59%	0.73%	-1.70%								-0.52%
ウィズダム	-0.47%	-2.84%	1.22%	0.50%	-1.58%								-3.19%
レゾリューション	0.02%	1.80%	4.82%	-0.39%	1.60%								8.00%
2015	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	年初来
プライスイ	-2.91%	0.43%	-0.74%	1.81%	0.84%	-0.27%	0.22%	0.84%	0.48%	0.83%	0.19%	0.15%	1.82%
ウィズダム	-1.38%	-1.99%	-0.24%	0.27%	0.85%	1.82%	0.96%	1.39%	-0.95%	0.00%	0.92%	0.54%	2.14%
レゾリューション	-1.92%	-4.43%	-1.60%	1.93%	0.57%	2.72%	-1.63%	3.38%	2.61%	-1.26%	1.14%	3.19%	4.44%
2014	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	年初来
プライスイ	2.24%	-0.37%	0.41%	1.08%	0.88%	2.08%	-0.16%	-0.32%	1.01%	-0.04%	-0.24%	-1.41%	5.22%
ウィズダム	0.94%	-0.06%	0.36%	0.81%	0.50%	1.06%	-0.30%	1.17%	0.46%	-0.04%	0.03%	0.33%	5.38%
レゾリューション	6.74%	-0.06%	2.94%	0.52%	1.36%	2.63%	-2.53%	5.02%	1.61%	-3.52%	-0.75%	2.09%	16.76%

※ 上記騰落率は投資対象ファンドの費用控除後の騰落率です。エピック・ヘッジファンド・セレクション1 (以下「HFS」という) にかかるコスト等が含まれないため、投資対象ファンドの騰落率を資産配分結果で加重平均した場合、HFSの基準価額騰落率とは一致いたしません。



エピック・ヘッジファンド・セレクション1 月次運用レポート

相場動向

5月の株式相場は、日経平均で3.41%上昇の17,234.98円、TOPIXで2.93%上昇の1,379.80ptとなりました。円安ドル高や政策への期待感から上昇しました。

上旬は、前月末の日銀会合において追加緩和が見送られ一時ドル105円台まで円高ドル安が進んだことから、業績への懸念が強まり、大幅に下落して始まりました。その後円高が一服すると、業績懸念が緩和され、下げ幅を縮小しました。

中旬は、米株安から売られる局面もあったものの、円安ドル高が進行すると、円高局面で売られていた外需株や好決算銘柄を中心に買いが入り、上昇に転じました。

下旬は、米株高や原油相場の上昇、米早期利上げ観測を受けて1ドル111円台へ円安ドル高が進んだことなどから、大幅に上昇しました。消費税率引き上げを延期すると報じられたことや、経済対策への期待感も株価上昇を支えました。

需給面では、海外投資家が2カ月ぶりに売り越しとなる一方、個人投資家や信託銀行など国内投資家が買い越しとなりました。

セクター別騰落率では、その他製品、建設業、食料品、輸送用機器、銀行業が上位となり、ゴム製品、石油・石炭、その他金融業、鉄鋼、電力・ガス業が下位となりました。

東証一部の売買代金は1日当たり2.05兆円と、4月より減少しました。特に月の後半は、材料難から売買が減少し、2兆円割れの薄荷いが続きました。

新興市場の騰落率は、JASDAQインデックスが4.61%上昇、東証マザーズ指数が1.16%上昇となりました。上旬まで好調だったマザーズ指数は、バイオ銘柄の急落等もあり中旬以降は失速し、小幅な上昇にとどまりました。

ファクター面では、モメンタムファクターがプラス、バリュエーションファクターがマイナスとなりました。

組入ファンドの運用状況と今後の市況見通し及び投資戦略

【ブラウイス】

<ファンド運用状況>

5月の運用成績はJPYクラスで-1.70%となりました。月間を通してバリュエーションが効きづらく、株価のモメンタム傾向が続いたことや、ポジションウェイトの高かった食品、電力などのディフェンシブセクター銘柄の多くが決算発表を受けてネガティブ方向に動いたことから、マイナスの運用成績となりました。セクター別の損益では、食品、電力・ガス、鉄鋼、化学セクターでマイナスとなり、不動産、サービス、精密機器セクターでプラスとなりました。

<今後の市況見通し及び投資戦略>

6月の株式市場はもみ合いの相場展開を想定します。米国の利上げ期待が遠のいたことから、輸出関連企業を中心に引き続き上値の重い展開が想定されますが、日本株のバリュエーション面での割安感や今期の収益ガイダンスが保守的と考えられることから、下値も限定的と思われる。

今後の運用方針は、個別企業の業績・需給動向や国内外のマクロ動向を勘案し、相対的な割高・割安を適切に判断しながら、マーケットの上下に左右されない安定した収益の獲得を目指します。

【ウィズダム】

<ファンド運用状況>

5月の運用成績はJPY-Fクラスで-1.58%でした。株価は決算発表で低い業績ガイダンスを織り込んだものの、今後の業績変化を見極めるまでは買いづらい状況下、割安株が相対的にアンダーパフォームしました。一方でディフェンシブセクターの割高株が相対的にアウトパフォームしたことに加え、小型好業績株が決算発表後下落したことでマイナスの収益となりました。

個別銘柄レベルでは、ロングポジションでカルソニックカンセイ(7248)、ピーシーデポコーポレーション(7618)、ショートポジションで出光興産(5019)、ファスター電機(6794)がプラス収益に寄与しました。

<今後の市況見通し及び投資戦略>

6月の株式市場は日米の金融政策を睨みながら一進一退の動きを予想します。また、7月から始まる国内企業の第一四半期決算においても前年度実績が高水準であったことから大幅な減益が予想され、業績面で積極的に買いづらい状況が継続するものと考えます。

今後の投資戦略につきましては、クオンツモデルとトップアナリストによる投資評価の双方を活用し、銘柄選択により安定的な収益を目指します。

【レゾリューション】

<ファンド運用状況>

小型株市場は、先月終わりの流れから月初優位で始まったものの、月央に向け急激に劣位となり、以降は優位・劣位を繰り返しつつ、月を通して見るとやや優位に終わりました。小型株市場全体としては、かなり不安定な推移になってきています。

また、先月後半の流れを維持して、グロース優位、バリュエーション低迷となり、ハイバリュエーションの一部が売られやすくなっていますが、全体としてバリュエーションが低下する状況までにはありません。

ポートフォリオとして、グロースエクスポージャーを落としましたが、大きなキャラクター変更もなく、個別銘柄のパフォーマンス積上げにより、プラスパフォーマンスの確保に至りました。

決算がらみでは、一部テクノロジー銘柄の下落による影響を受け、やや大きなマイナス寄与となりましたが、総じてロング銘柄のプラス寄与が大きくなりました。

<今後の市況見通し及び投資戦略>

会社発表のガイダンスで想定以上の悲観的な見通しは少なかったものの、外部環境の不透明感は当面持続する見込みであり、良好な事業環境にある企業は限定的であることが明らかになっています。

当面は、小型株が大崩れしそうにはないものの、一本調子でないと考えます。個性のある小型株のロング部分で引き続きパフォーマンスの確保を狙い、新たな期待銘柄への入替を進めていきます。

新しい魅力的なサブカテゴリーが見だしにくい状況であり、ポジションの大幅なキャラクター変更は予定しません。

業績モメンタムの変化に留意し、継続した業績拡大可能な割安銘柄の組入と、成長力や競争力といった中期的な視点により割安銘柄と割高銘柄の選別を進めます。

投資信託の主な関係法人

管理会社:	インターナショナル・マネジメント・サービス・リミテッド
信託会社:	G.A.S. (ケイマン)リミテッド
管理事務代行会社:	エスエムティー・ファンド・サービス(アイルランド)リミテッド
保管銀行:	スミトモ・ミツイ・トラスト(ユークイ)リミテッド
投資運用会社:	エピック・パートナーズ・インベストメンツ株式会社
	金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第432号
	加入協会:一般社団法人 日本投資顧問業協会
代行協会員・日本における販売会社:	ヘッジファンド証券株式会社 http://hedgefund-sec.com/
	金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第2580号
	加入協会:日本証券業協会



エピック・ヘッジファンド・セレクション1 月次運用レポート

金融商品取引法に基づく表示

商号等

エピック・パートナーズ・インベストメンツ株式会社
金融商品取引業者 関東財務局長（金商）第432号

当社が加入する協会等について

一般社団法人 日本投資顧問業協会 加入 第011-01395号

ご注意事項

- 当資料は投資信託の運用状況をお知らせするためにエピック・パートナーズ・インベストメンツが作成した資料であり、法令に基づく開示資料ではありません。
- 投資信託をお申し込みの際は、販売会社から投資信託説明書（交付目論見書）をお受け取りになり、その内容をよくお読みいただきご確認のうえ、お客様ご自身が投資に関してご判断ください。
- 当資料は特定の有価証券等の取得の申込み、投資顧問契約、投資一任契約の勧誘等を目的としたものではありません。
- 当資料内の運用実績等に関するグラフ、数値等は過去のものであり、将来の運用成果等を示唆または保証するものではありません。
- 当資料内のいかなる内容も、将来の市場環境の変動等を保証するものではありません。
- 当資料は各種の信頼できると考えられる情報源から作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。
- 投資信託は、株式等を投資対象としますので、組入株式の価格下落や、組入株式の発行会社の倒産や財務状況の悪化等の影響により、基準価額が下落することがあります。
したがって、投資家の皆様の投資元金は保証されているものではなく、基準価額の下落により、損失が生じることがあります。
- 運用管理費用、監査費用、その他の諸経費が、投資信託の保有期間に応じてかかりますが、事前にその上限を示すことができません。また、有価証券の売買等に係る手数料、租税等が発生しますが、運用の状況により変動しますので事前にその上限を示すことができません。

**当資料は、投資運用会社であるエピック・パートナーズ・インベストメンツが投資信託の運用状況をお知らせするために作成した資料であり、法令に基づく開示資料ではありません。
投資信託をお申し込みの際は、販売会社から投資信託説明書（交付目論見書）をお受け取りになり、その内容をよくお読みいただきご確認のうえ、お客様ご自身が投資に関してご判断ください。**